

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	75-1 景観整備事業	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
基本 施策	29 伊賀市らしい景観を守り、活かす	目	06	企画費
		細目	122	地域振興経費
		細々目	03	景観整備事業
行革大綱の重点事項番号		2		
担当部課名	コード	700100		担当者氏名
	名称	大山田支所振興課		
		連絡先	47 - 1150 (内線) 239	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	地域の住民	※対象件数
成果(どうする)	過去に実施した景観整備の内容を維持管理し、次世代に引き継ぎ、地域の実情に応じたまちづくりを推進する。	
根拠法令・要綱等		
開始年度	平成 4 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H23 事業 内容	地域づくり景観整備シンポジウムの開催 大山田地域づくりに関する活動報告(冊子)の作成及び発行 いぶし瓦の常夜灯及びサイン灯の維持管理	
社会情勢の 変化等	平成4年度から始まった地域づくり景観整備事業の物的財産や人的財産がある。この財産を次代へと引き継ぎ、さらなる住民主体の地域づくりの発展を目的に市民、地域づくりグループ、住民自治協議会の交流の場として、シンポジウムを毎年開催している。ゆめさき会は、平成19年度に行政から独立した団体である。協働で今後もシンポジウムを開催し、交流の場を提供していく必要がある。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

運営主体	
1 (委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
シンポジウム開催数	目標	回	1	1	1	1
	実績		1	1		
活動報告(冊子)発行部数	目標	部	80	80	80	80
	実績		80	80		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
シンポジウム参加者数		シンポジウムの参加者数は、住民主体の地域づくりに取り組む人の数に比例すると考えられる。	人	目標	50	50	50
				実績	40	50	
				目標			
				実績			

投入コスト	H22 決算		H23 決算		H24 当初予算		H25 当初要求	
	(千円)		(千円)		(千円)		(千円)	
直接事業費計 (A)	561		526		544		544	
Aの 財源 内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	561		526		544		544	
事業投入人件費 (B)	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	720	0.1人	720
フルコスト (A)+(B)	1,281		1,246		1,264		1,264	

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	地域で景観整備を行うことにより、美観につながり、他の住民や通りすがりの人の目を引く効果がある。 他地区とのシンポジウムを行うことで大山田の地域づくりに活かせる。
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	【達1】当初設定した計画を 60%未満 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】 3自治協議会の環境部会が集まり事業実施について協議する場を作る。	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	平成24年度から、住民自治協議会と共同で事業を行い、拠点地区市民センターに移行して自立を促進する。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいない 【詳細】 ゆめさき会と山田自治協議会の合同で2事業を行ったが、大山田管内には3つの自治協議会があり、景観整備事業を実施するのは、自治協の環境部会が適当だと思うが、3地域が1つになり事業を行うまでには至っていない。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	西口 敏之
事業の方向性	【方向性】 手法改善 【理由】 事業内容は現状維持とし、シンポジウムの実施を自治協議会が主体となり行うように進める。
現時点における課題、その他	景観整備事業における団体の活動拠点が無い。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	景観整備事業シンポジウムの開催について、自治協の環境部会を交えて協議をする場を設け、事務作業を移行していく。常夜灯の日常維持管理については、区で行うという覚書を交わしているが、器具の大きな破損等が生じた場合は市で修繕を行っているため、修繕に係る予算の確保が必要である。

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	75-2 景観整備事業(いぶし瓦の常夜灯維持管理経費)	会計	01	一般会計
		款	02	総務費
		項	01	総務管理費
		目	06	企画費
基本 施策	29 伊賀市らしい景観を守り、活かす	細目	122	地域振興経費
		細々目	03	景観整備事業
行革大綱の重点事項番号		1		
担当部課名	コード	700100		担当者氏名
	名称	大山田支所振興課		
		連絡先	47 - 1150 (内線) 239	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	いぶし瓦の常夜灯の維持管理を行う自治会	※対象件数	22地区
成果(どうする)	常夜灯の電気料金を助成することで、自治会の負担が軽減される。 常夜灯の点灯により夜間の景観が改善される。		
根拠法令・要綱等	伊賀市大山田地域常夜灯維持管理経費補助金交付要綱		
開始年度	平成 21 年度	関連事業	
終了年度	平成 年度		
H23 事業 内容	大山田財産区特別会計から一般会計へ繰入れ、自治会が維持管理する常夜灯の年間電気料の一部を助成する。 助成額=(12月の常夜灯の電気料-12月の街路灯の電気料)×12ヶ月×常夜灯の灯数		
社会情勢の 変化等	常夜灯の設置数(72基)は増加することはないが、補助金については当該年度の12月の電気料で算定されるので年度により増減する。		

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積 (延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体 (委託先)	[]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の 類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
常夜灯維持管理経費助成金	円	目標	531,000	531,000	531,000	531,000
		実績	445,896	528,624		
		目標				
		実績				

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値		
				H22	H23	H24	H25	
補助をした常夜灯数		補助対象の常夜灯数は72基であるが、申請を受領し、補助金を交付した常夜灯の数。	基	目標	72	72	72	72
				実績	72	72		
				目標				
				実績				

投入コスト	H22 決算		H23 決算		H24 当初予算		H25 当初要求	
	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	(千円)	
直接事業費計 (A)	446	529	531	531				
Aの財源内訳								
国庫支出金								
県支出金								
地方債								
その他								
一般財源	446	529	531	531				
事業投入人件費 (B)	0.05人	360	0.05人	360	人	0	人	
フルコスト (A)+(B)	806	889	531	531				

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを負担しきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは市域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必12】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【必13】【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】 ※	常夜灯の積極的な維持管理が行われ、夜間の地域の美観につながる。 いぶし瓦の常夜灯は、温か味が感じられるようナトリウム灯を使用していることから、電気料金は蛍光灯の街路灯に比べ3倍以上の電気代になる。補助金がなくなると地区(自治会)の負担になる、如いては住民の負担に繋がる。
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	
昨年度の取組状況	【状況】 【詳細】

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	西口 敏之
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 大山田地域の特色ある景観を維持管理していくために、事業内容は現状維持とする。
現時点における課題、その他	常夜灯の電球のナトリウム灯の価格は1万円を超え、また施設自体も設置からの年数が長いので、器具の不具合等が発生し、自治会の維持管理負担が大きくなり、地区要望がある。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	電気料金により予算額が増減されるため、予算の確保が必要である。